

～胃がんリスク検診(ABC分類)～

予約不要！・保険証不要！・採血をして終了！・結果は約1週間で自宅に郵送！
 検診費用は4,190円(税込)

胃がんにはピロリ菌感染が深くかかわっています。ピロリ菌感染のない人から胃がんが発生することはごくまれです。また、ピロリ菌感染によって胃粘膜の萎縮が進むほど、胃がんが発生しやすくなります。胃粘膜の萎縮の程度は、胃から分泌されて消化酵素ペプシンのもとになるペプシノゲンという物質の血液中の濃度を測定することでわかり、基準値以下の人は、6～9倍胃がんになりやすいことがわかっています。

胃がんリスク検診(ABC分類)とは、ピロリ菌感染の有無(血清ピロリ菌 IgG 抗体)と胃粘膜萎縮の程度(血清ペプシノゲン値)を測定し、被験者が胃がんになりやすい状態かどうかをA～Dの4群に分類する新しい検診法です(表1)。血液による簡便な検体検査であり、健診などと同時に行なうこともできます。

胃がんリスク検診(ABC分類)はがんそのものを見つける検査ではありません。胃がんになる危険度がきわめて低い、ピロリ菌の感染がなく胃粘膜が健康な人たち(A群)を精密検査の対象から除外し、ピロリ菌に感染(またはかつて感染)して胃粘膜に萎縮のある人たち(B～D群)には、胃がんの存在を確かめる精密検査(内視鏡検査等)を受けていただくものです。近年、ピロリ菌に感染していないA群の割合が増えており、多くのA群の人たちが内視鏡による精密検診を受けないで済む点が大きなメリットです。「胃がんリスク検診(ABC分類)により、胃がん発生の危険度がわかった人は専門医で内視鏡検査やピロリ菌除菌を行う。そして内視鏡検査で発見される早期胃がんに対しては、低侵襲の内視鏡治療を行う」ことこそが、ピロリ菌時代の理に適った胃がん対策であると考えます。

《この検査に不適な方》

- ※1 明らかな上部消化器症状のある方、上部消化器疾患治療中の方、プロトンポンプ阻害剤服用中の方、胃切除後の方、腎不全の方、ヘリコバクター・ピロリ菌の治療を受けた方は正しい結果が得られない場合がありますので、あらかじめご注意下さい。
- ※2 ご依頼に当たっては、ヘリコバクター・ピロリ除菌歴の有無をご確認下さい。未感染者と既感染者ではリスク程度が異なると考えられており、既感染者がA群に編入される可能性があります。

表1 胃がんリスク検診 (ABC分類)

ABC分類	A群	B群	C群	D群
ピロリ菌	—	+	+	—
ペプシノゲン値	—	—	+	+
胃がんの危険度	低			高
胃の健康度	健康な胃粘膜。胃粘膜萎縮の可能性は非常に低い。	胃潰瘍に注意。少数ながら胃がんの可能性も。胃粘膜の萎縮がない、または軽い。	慢性萎縮性胃炎。胃粘膜萎縮が進んでいる。	胃がんの可能性。胃粘膜萎縮が進み過ぎ、ピロリ菌が胃に住めずに退却。
その後の管理・対処法	管理対象から除外。	必ずピロリ菌除菌。除菌前後に画像検査。	ピロリ菌除菌の徹底。定期的内視鏡検査。	毎年の内視鏡検査。
年間の胃がん発生頻度	ほぼゼロ	1000人に1人	500人に1人	80人に1人
判定後2次精密画像検査(間隔)	不要※	必要(3年以内)	必要(2年以内)	必要(毎年)
ピロリ菌除菌	不要	必要	必要	必要

※自覚症状のある人、また過去5年以内に精密画像検査を受けていない人は必要。(2012)

お問い合わせ:市立芦別病院 事務課医事係 (電話:0124-22-2701)